

「原子カムラ」の境界を越えるためのコミュニケーション・フィールドの試行
第9回フォーラム研究会
議事録

日時：平成26年3月11日（火） 13:00～16:30

場所：パブリック・アウトリーチ本部事務所

出席者：13名（順不同・敬称略）

木村（PONPO）、足立（元気ネット）、植木（元気ネット）、円満字（PONPO）、
大石（PONPO）、神崎（PONPO）、鬼沢（元気ネット）、久保（PONPO）、
竹中（PONPO）、中岡（元気ネット）、丸山（PONPO）、諸葛（PONPO）、
土田（関西大）（社会調査グループ）

配布資料

F9-0. 議事次第

F9-1. 第8回フォーラム研究会議事録案

F9-2. フォーラム参加申込書（首都圏住民用）

F9-3. フォーラム参加申込書（原子力学会員用）

F9-4. フォーラム参加申込書の回答

F9-5. 平成25年度社会調査結果（抜粋）

F9-6. フォーラムインタビューの分析について（パワーポイント資料）

議題

0. 議事録確認

1. フォーラム参加者について

2. フォーラムインタビューの分析

3. その他

※議論の詳細については、逐語録に記録されている。

0. 議事録確認（配布資料 F9-1）

木村氏より、資料 F9-1 に基づき、前回の議事録の確認がなされた。

1. フォーラム参加者について（配布資料 F9-2～F9-5）

木村氏より、資料 F9-5 に基づき、今年度の社会調査結果の一部（フォーラム参加申込書に該当する部分）が紹介された。

- ・ 首都圏住民の原子力に関する関心は、昨年度に比べ、減少傾向にある。
- ・ 利用－廃止に関しては、首都圏住民、原子力学会員ともに「廃止」の意見が増えている。
- ・ 有用－無用に関しては、首都圏住民、原子力学会員ともに「無用」の意見が増えている。
- ・ 安心－不安に関しては、首都圏住民、原子力学会員ともに震災前の傾向に戻りつつある（「不安」の意見が減っている）。
- ・ 原子力発電がなくても日本は経済発展できる、とする意見が増加している。

続いて、資料 F9-2～F9-4 に基づき、次年度のフォーラム参加者に関する議論がなされた。

【全体方針】

- ・ フォーラム参加者の意見分布が、社会調査の意見分布に合うようにする。
- ・ 首都圏住民参加者 10 名、原子力学会員参加者 10 名とする。
- ・ 2014 年度のフォーラムは、システム要件の検討を主目的とする。フォーラムの目的に沿う参加者を選ぶために、複数の方法を用いる。

【首都圏住民参加者の基準】

- ・ 年齢は、20 代、30 代と、40 代以上の 2 分割とする。
- ・ 性別は、男女の 2 分割とする。
- ・ 原子力発電の利用（本調査票 Q6、フォーラム申込書 Q4）は、「利用」「どちらともいえない」「廃止」の 3 分割とする。なお、本調査の意見分布を踏まえ、「利用」：「どちらともいえない」：「廃止」＝1：1：2 を目安とする。

【原子力学会員参加者の基準】

- ・ 年齢は、20 代、30 代と、40 代以上の 2 分割とする。
- ・ 性別は、原子力学会員の割合を踏まえ、男性 8～9 名、女性 1～2 名とする。
- ・ 専門分野が均等になるよう配慮する。

以上を踏まえ、首都圏住民参加者 10 名、原子力学会員参加者 10 名を決定するという方針が確認された。

2. フォーラムインタビューの分析（配布資料 F9-6）

竹中氏より、資料 F9-6 に基づき、フォーラムインタビューの分析の経過が紹介された。その後、分析の内容、方針について議論がなされた。

システム要件について

- ・ 「知らなかった事実を知る」という要素は、独立した要素として扱うべきだ。
- ・ システム要件は、「①客観視をする」「③冷静なコミュニケーション」などの「雰囲気」の要素と、「②人となりを知る」「知らなかった事実を知る」などの「知る」という要素に大きく分けられるのではないか。

分析手法について

- ・ 具体的な意見について、グルーピングが必要ではないか。
 - 意見の対立構造の見える化
 - 発言者の属性と、意見の対応付け
 - 意見を付箋にして、グループ化の作業をしてもいいかもしれない。
- ・ 「市民」をどのようにグルーピングすればよいか。
 - 必ずしも、原子力賛成／原子力反対ではないはずだ。
 - 自ら学びたい人／教えてもらいたい人
 - 理屈を重視する人（専門家に多い）／感性を重視する人（市民に多い？）
 - 話せば分かる人／意見が凝り固まっている人
- ・ 何人の人がその意見を言ったのかが分かるように整理すべきだ。
- ・ 変化前の考え、変化後の考え、そのきっかけが分かるような整理をしてはどうか。変化のなかった意見も併記すべきだ。
- ・ フォーラム記録との突き合せを徹底すべきだ。
 - 例えば、一言感想で「あのときのこういう発言で気づきました」とあれば、「こういう発言」や、その前後の文脈まで精査する必要がある。
 - 記憶の改ざんが起きている場合もある。そのチェックも必要だ。
- ・ 意見が変わらない人は、なぜ意見が変わらないのか、どのようなシステムを盛り込めば変わるようになるのかを、今後検討していく必要があるだろう。
 - 「意見は変わらないが、話を聞いて自分の意見により確信を持つようになった」は、変容である。ただし、アンケートやインタビューでその分析を行うのは難しい。

- ・ 市民は、周りの市民の動向を見て、自身の言動をコントロールしたり、変化させているのではないか（原発反対と言いたくても、他に誰もそれを言う人がいないと、言いづらくなる等）。市民同士の相互作用も検証してはどうか。
- ・ 「場を壊すような発言はしてはならない」という（ある意味「大人な」）意識が参加者の中にあっただ。それを前提に分析をすべきだ。
- ・ 個人同士のダイナミクスも分析してはどうか。
 - 影響力の大きい「発言」「人」などを基に、具体的なケースを複数洗い出す。

以上の議論を踏まえ、竹中氏を中心に、再度分析・整理が行なわれることになった。

3. その他

木村氏より、今後の予定などが告知された。

- ・ 3月17日（月）午前に、第5回業務推進全体会議が開催される。主に社会調査の結果について議論する予定である。
- ・ 3月17日（月）午後に、第2回外部評価委員会が開催される。
- ・ NHKから取材の申し込みがあったことが告知された。フォーラムそのものへの取材は、情報公開の原則に従い、お断りした。次年度のフォーラム研究会で模擬フォーラムを実施する際に、取材が行なわれる可能性がある。

以上